



2026年7月31日

各 位

会 社 名 特 殊 電 極 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 西 川 譽
(コード: 3437 東証スタンダード)
問 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 片 岡 達 哉
(TEL. 078-941-9421)

「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」に関するお知らせ

当社は、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、ご説明する資料を作成しましたので、お知らせいたします。

詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」をご参照ください。

以 上

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

特殊電極株式会社

証券コード 3437

2026年7月31日

特殊電極ロードマップ



当社グループは、1950年の会社設立以来、特殊溶接材料メーカーとして事業基盤を構築してまいりました。顧客ニーズへの対応を通じて溶接工事分野へと事業領域を拡大し、現在では材料開発・製造から装置開発、現場施工までを一貫して提供する体制を確立できるようになりました。これにより独自の溶接技術・製品を強みに、溶接業界というニッチ分野において競争優位性を維持しております。

外部環境においては、自動車産業分野でのEV化の進展やギガキャスト市場の拡大に加え、発電分野および環境・エネルギー分野における需要の拡大、省エネルギー技術へのニーズの高まりが見込まれております。当社グループはこれらの事業機会を確実に取り込み、持続的な成長を実現してまいります。その実現のために、①「装置・施工領域との融合によるソリューション提案力の高度化」②「新規分野への経営資源の重点配分」③「技術力・開発力の強化」に取り組んでまいります。

また当社グループは、従業員を最も貴重な資産であり、成功の核として位置づけております。上記の取組みの実行及び人的資本への投資を通じて、溶接材料メーカーとしての技術的な優位性を基盤に、トータルエンジニアリングサービスを提供する企業になることを目指し、事業を運営してまいります。

- | | |
|---|--|
| ① | <ul style="list-style-type: none">・ 設備の自動化、ロボット化及びレーザー溶接等の先端技術導入による溶接技術の拡充・ 当社技術を活かしてプラントエンジニアリング領域への展開を強化し、収益拡大を図る・ 顧客製造設備におけるAI・IoT活用技術の開発・実装を推進し、保全・効率化ニーズを取り込む・ 材料×技術×施工の一体提案により差別化を図り、高付加価値案件比率を向上 |
| ② | <ul style="list-style-type: none">・ 海外事業の強化及び現地パートナー連携による海外展開の加速・ 自動車業界(EV・水素)、電力業界(次世代エネルギー)の新規需要を獲得 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none">・ 高付加価値な材料開発の推進・ 顧客課題(長寿命化、省人化、生産性向上)に直結する技術開発・ 開発スピード向上のための体制を構築 |

現状分析

当社の2026年3月期におけるPBRは0.57倍、ROEは5.8%、PERは9.8倍となっております。

株主資本コストについては、CAPMによる推計では5.5%程度となる一方、実態的には10.0%程度と想定しており、当社の株主資本コストは5.5%～10.0%と認識しております。

まずは2030年3月期にPBR0.80倍超、ROE8.0%超、PER10.0倍維持を目標として企業価値向上に取り組んでまいります。

ROE低迷の要因

ROE低迷の要因として、売上高は伸びているものの原材料や外注加工費の高騰、人件費や減価償却費等の増加により、売上高当期純利益率が低迷していることがあげられると考えております。

また、大型投資と在庫価格上昇に伴う資本効率の低下や、利益をコンスタントに計上することによる自己資本の増加もROEを押し下げる要因であると認識しております。

株主資本コスト

①CAPMによる推計

下記計算式を元にした当社試算：5.5%

リスク フリーレート 2.5	+	ベータ (β) 係数 0.5	×	市場リスク プレミアム 6.0
10年債利回りをベースに設定		当社株式固有のリスク尺度		株式投資に期待する超過収益率

②株式益利回りによる推計

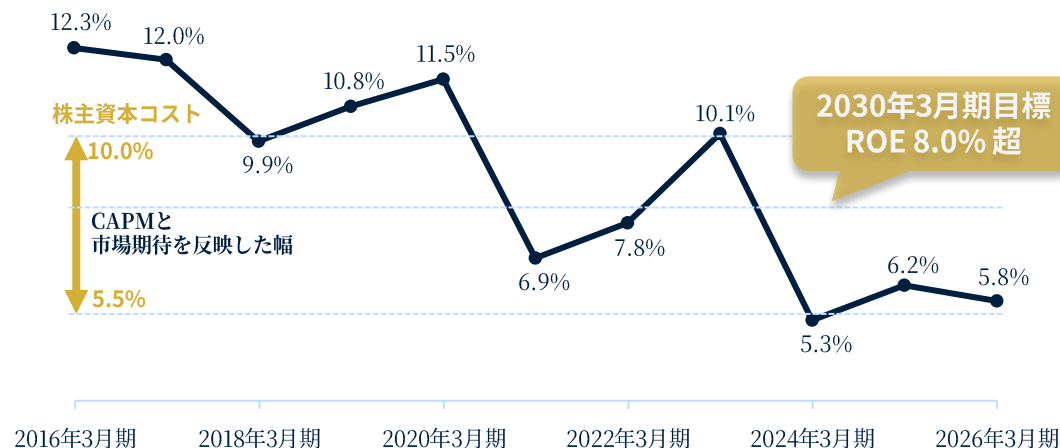
PERの逆数による試算：10.0%程度

株価低迷の要因

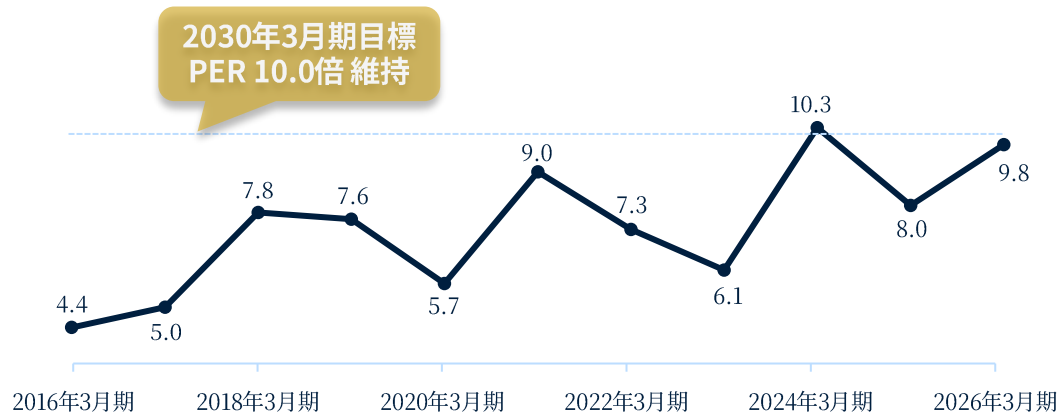
当社はスタンダード市場に上場する時価総額50億円未満の小型株であり、個人投資家を中心となっております。

株価の低迷は、そのような背景のなか、一般市場での知名度が低く流動性が低い点が要因であると認識しております。

ROE



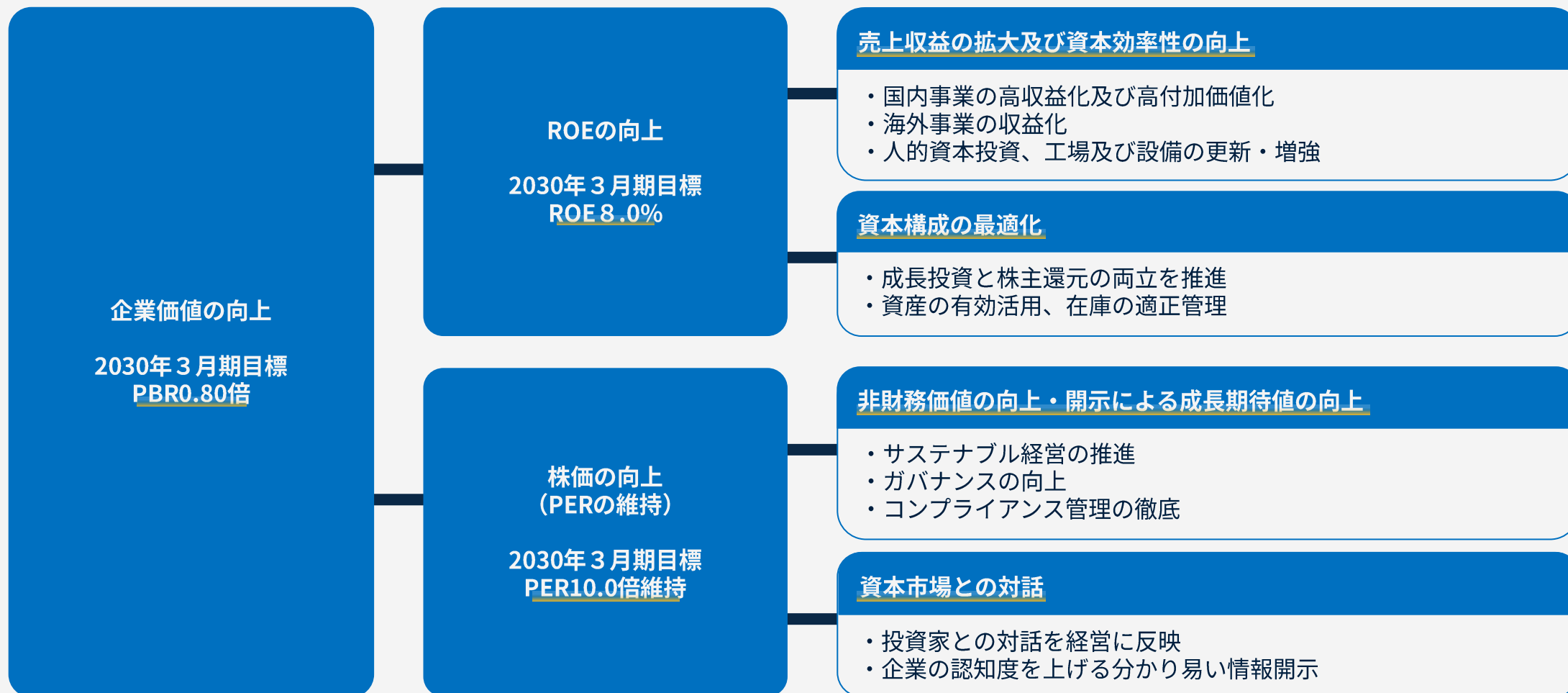
PER



企業価値向上への取組み — PBR分解と主な施策 —

2030年3月期にPBR0.80倍超（ROE 8.0%超とPER10.0倍維持）の目標達成に向け、以下の施策を着実に遂行してまいります。

- ROE目標の達成に向けては、売上収益の拡大と資本効率の向上を図るとともに、資本構成の最適化を推進してまいります。
- PER目標の達成に向けては、非財務価値の向上と積極的な情報開示を進め、資本市場との対話を一層強化してまいります。



企業価値向上への取組み — ROE向上に向けた取組み —

国内事業の高収益化及び高付加価値化

開発強化 持続的な競争優位性の確立



- ・設備の長寿命化、省人化、生産性向上に直結する高付加価値材料の拡充
- ・開発スピードと品質の両立に向けた体制の高度化

成長分野への資源配分



- ・顧客基盤の拡充やパートナーとの連携強化で事業展開の加速
- ・EVや再エネ、インフラ更新分野へ積極進出で新たな需要の取込み
- ・生産能力の増強や高効率設備への投資で供給力強化と生産性向上を両立

ソリューション提案力の高度化



- ・自動化・ロボット化やレーザー溶接による高度な施工対応力の強化
- ・設計～施工まで一体のサービスでプラントエンジニアリング領域へ展開
- ・生産性向上や保全・効率化に貢献する顧客設備におけるAI・IoT活用を推進

重点注力セクター

EV（電気自動車）＆ ギガキャスト

自動車産業のEVシフトに対応
ダイカストマシン部品ソリューションや
自動化技術の提供を深化



エネルギー

電力構造の変化に対応し、バイオマス発電や
次世代電源設備への延命技術を積極的に提供

海外事業の収益化

アジア市場における事業拡大を目的として、
既存の海外子会社と連携し、アジアでの販売
体制を強化

需要拡大するアジア市場環境



今後も高い経済成長が見込まれている
地域があり、溶接業界における既存設
備の再生・延命や省エネ・高効率化に
関する技術ニーズに一層の高まり



製造業の再編に伴う新規設備投資や、
日系企業のチャイナプラスワン戦略に
よる需要拡大も期待

インド

TOKUDEN INDIA PVT. LTD. を新たに設立
セメント・石炭火力向けミルローラーの肉盛再生など独自工事サ
ービスを持ち込み、材料メーカーとしての提案型営業で市場を開拓

インド市場

製鉄	2030年までに粗鋼生産量2.5倍 CAGR 7 %超の成長
自動車	中間層の台頭により、 2050年に1,700万台生産予測
セメント	世界第2位の生産国 2030年に6億トン規模（CAGR4.7%）
石炭火力発電	世界第2位の保有国 既存設備の増強と新設需要

中国

特電佐鳴（南通）機械製造有限公司

日系自動車メーカーへの肉盛工事サービスに加え、
サプライチェーンを活かした溶接材料販売を加速

タイ

TOKUDEN TOPAL CO., LTD.
当社グループが得意とする溶接
工事の拡販を行い市場を開拓

企業価値向上への取組み ― キャッシュアロケーション ―

2027年3月期～2030年3月期
4期間合計（連結ベース）



キャッシュイン キャッシュアウト

将来の競争優位性へ
4年で23億円の成長投資

自動車業界の深掘り
ギガダイカustomマシン関連技術
EV・水素シフト対応

製鉄業界の構造改革への対応
電炉シフト、次世代技術への対応

人的投資
専門人材の育成
グローバル人材の育成

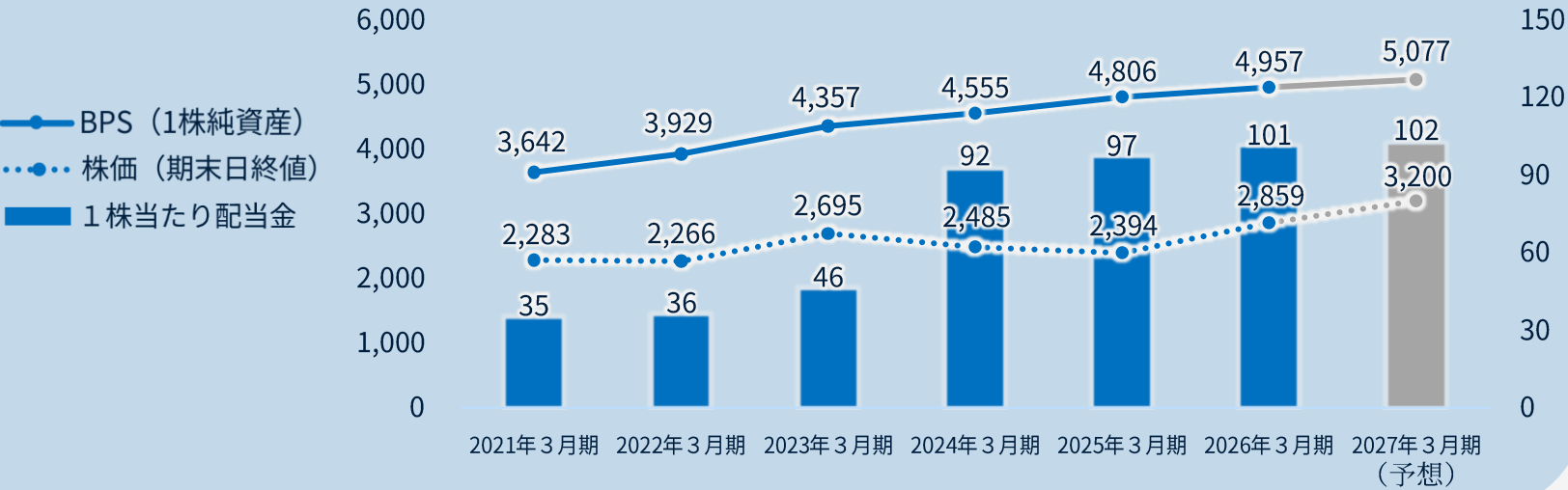
新技術・基礎研究
高付加価値溶接材料の開発
先端技術の導入

電力構造変化への対応
次世代エネルギーへの対応

DX/インフラ投資
生産性向上、技術・品質の向上

DOE（株主資本に対する還元比率）を2.0%以上に設定し、安定かつ中長期的な増配トレンドを目指す

（単位：円）



企業価値向上への取組み — 株価向上への取組み —

当社グループは、持続的な成長ストーリーの明確化や、人的資本、技術力、サステナビリティなどの非財務情報の開示充実、資料の分かり易さ向上を通じて、個人投資家をはじめとする幅広い投資家層への訴求力を高めてまいります。また、ガバナンス強化により、将来的には機関投資家からも評価される企業を目指してまいります。

コーポレートガバナンスの強化

実行性のあるガバナンス体制を推進してまいります。

今後の展開

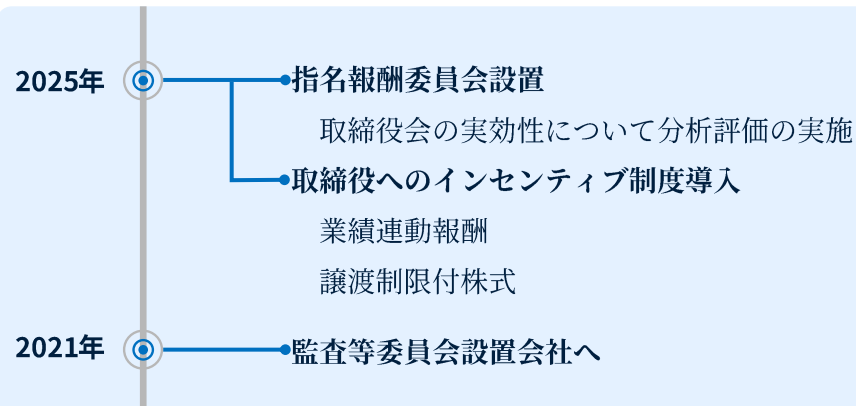
◆取締役会実効性評価に基づく議論の活性化

- ・中期経営計画に関するテーマや将来成長に向けた事業戦略
- ・従業員エンゲージメント改善に向けた議論
- ・取締役会事務局の機能強化

◆企業価値向上との連動を意識した役員報酬制度の検討

- ・中長期的な業績、企業価値向上との連動性
- ・報酬決定プロセスにおける透明性、客観性

具体的な取組み



資本市場との対話

株主・投資家との建設的な対話を推進してまいります。

対話内容は取締役会に報告し、株主投資家の意見を経営に反映してまいります。

情報開示の充実

IR活動の拡充

- ・個人投資家向けIR活動
- ・決算説明の実施
- ・非財務情報の開示



認知度向上への取組み

- ・広報活動の充実
- ・ホームページでの情報発信



人的資本投資

◆積極的な人材採用・開発

特殊溶接という事業特性を踏まえ「人材の育成と技術の伝承」を基本方針としております。

営業職においては、技術知識を持つセールスエンジニア型人材を育成し、顧客課題に応じた提案力を強化することで、顧客満足度を向上させ、収益性の確保に繋げております。

技術職においては、資格取得制度や教育訓練を通じて専門性を高めることで、技術品質の安定と差別化を図っております。

◆環境整備

人材の採用・育成及び多様な人材が活躍できる環境整備を進めております。

さらに「安全は全てに優先する」という安全衛生管理方針のもと、労働災害及び交通災害の発生ゼロを目指し、グループ全体の安全水準を向上させております。

本資料の取扱いについて

本資料は、情報提供のみを目的として作成されたものであり、当社の有価証券の売買の勧誘を構成するものではありません。本資料に含まれる将来予測に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。将来予測に関する記述には、当社の事業計画、市場規模、競合状況、業界に関する情報、成長余力及び財務指標並びに予測数値が含まれます。将来予測に関する記述は、あくまでも当該記述がされた時点におけるものであり、将来変更される可能性があります。将来予測に関する記述によって表示又は示唆される将来の業績や実績は、既知又は未知のリスク、不確実性その他の要因により、実際の業績や実績は当該記述によって表示又は示唆されるものから大きく乖離する可能性があります。当社は、財務上の予想値の達成可能性について明示的にも黙示的にも何ら保証するものではありません。

また、当社は、本資料の日付以降の事象及び状況の変動があった場合にも、本資料の記述を更新又は改訂する予定はありません。

IRに関するお問い合わせ

特殊電極株式会社 総務部

TEL **078-941-9421**

<https://www.tokuden.co.jp>